

(様式 3)

政務活動（参加・実施）報告書

令和 7 年 5 月 22 日

会 派 公明党議員団参 加 者 大西 厚子

政務活動先 (目的地)	①神奈川県大和市南林間 6 丁目 16 やまと防災パーク ②東京都八王子市万町 23-2 ㈱エイ・アイ・シー				
開催団体等					
政務活動期間	令和 7 年 5 月 20 日 (火) ~ 21 日 (水)				2 日間
政務活動項目 (名称等)	①やまと防災パークについて ②業務用消滅型生ごみ処理機ほか事業内容について				
政務活動参加者	大西厚子	藤田広美	大野正和	池田謙次	神山哲太郎
					計 5 名
全体参加者数					
政務活動の目的・結果等の概要・所見	①やまと防災パーク<参加者：大西、藤田、大野、神山> 《目的》 本市におきまして防災意識の高揚は絶対に必要な事でありま すし、市民の関心事になっている現状の中におきまして更なる取 組が必要になります。そこで現状の取り組みを膨らませながら 防災教育や取り組みを多角的に考える中におきまして公園を防災 拠点にし、広報されている先進的な取り組みを現地におきまして 実施の経緯や方法、経費面や効果などを視察させていただき、本 市においての提案内容を大きく検討するべく種々学ばせて頂くこ とを目的とします。 《やまと防災パークについて》 ○やまと防災パークの設置経緯は、大和市内の木密（木造密集） 地域における防災課題の一環として整備されました。国が定める 防災公園としての要件は満たさない狭い場所でしたが、地元の防 災力強化の必要性や公園不足という地域課題を背景に、市が下水 道用地として取得していた土地を活用し、防災公園として整備さ れたとのことでした。 ○この構想は、防災に関心のある市民の声や、地域からの要望を 受けてスタートされ、議会でも整備方針や予算措置について議論 されたとのことでした。特に、災害時の一時避難所としての有効 性や、日常の公園利用との両立について焦点が当てられました。				

○議会での議論としましては、避難スペースなどの防災としての観点と公園としての日常利用のバランスや、維持管理コスト、市民の声をどこまで反映するかなどが議論され、これらの議論を経て、用地を「下水道用地」として保有しながら、「公園として借りる」という形式で整備されました。主に防衛省の補助金を活用し、初期段階から予算が付いています。

○結果や成果としまして、

- ・備蓄倉庫を設置し、最大 3,800 人を収容可能な避難場所が出来ました。

- ・大規模貯留池を整備することにより、地域で問題となっていた床上浸水被害は解消されました。

- ・一時避難所として自治会が独自に指定し、市に届け出をする形で市民は避難場所として認識しております。

- ・地域の公園不足を補う役割を果たしております。

○メリットは、

- ・地域の防災拠点としての機能（備蓄・収容能力など）が高まる。

- ・公園不足地域への新たな憩いの場を提供できる。（人口密度が高い地域特有の課題）

- ・日常利用と災害対策の両立ができて、災害対策内容や備蓄品の見える化が出来て防災教育にもつながる。

○デメリットは、

- ・規模が狭く、広域避難には不向きである。（なので市としての避難場所に指定できない）

- ・維持管理費用が膨らむ。（直営管理になってしまう）

- ・夜間はトイレ施設をしなければならないなど利便性の制約がどうしても必要。

○予算については、当初から予算付けで、防衛省の補助金を主に活用されたとのことでした。（近隣に自衛隊駐屯地や飛行場あり）更に、下水道用地を借地形式で運用することでコスト抑制された特徴があります。

○利用状況としましては、近隣住民にとっての通常の公園利用が中心となります、専用利用は午前中のみ使用許可制というルールがありますが、利用頻度はかなり高いです。（近隣住民がひと休みすることや子どもたちの遊び場などの公園としての本来の意義を保つための配慮との事です）

○市民の声・要望の一番は「安心感がある」という声だそうでした。

他に利用頻度が高いため、設備の補修要望が頻繁にあるほか、犬の放し飼いやフン、スケートボードの利用などマナー違反の声も若干あるそうです。

○公園施設を利用しての実践的な訓練などは、年 2 回、消防主催の防災訓練を実施され、地域住民の参加も多く、防災意識向上に貢献されているようです。

○普段公園として遊ぶなどの施設は、災害時に活用できます。

- ・複合遊具→テントを張り一時風雨をしのげる

- ・四阿（あずまや）→テントを張り一時風雨をしのげる

- ・かまどベンチ→ベンチ部を外しかまどの様に炊出しが出来る

- ・マンホール→マンホールトイレ設置個所多数（くみ取り式）

- ・自動販売機→災害時解放される

《所感》

やまと防災パークとしての始めは、数年に一度の大雨（正しくは山側地域から流れてくる雨水による影響が多かった）で家屋に浸水することの対策を講じることからの始まりでしたので、予算面などを考慮しての設置だとお聞きしました。故に新規の防災に特化した公園を新規に作ることができ、地域住民のニーズと合った事案であり、命と暮らしを守る大事な施設でありました。

本市におきましてはありがたい事に沢山の公園があります。防災意識の向上や、防災教育には非常に意義のある施設で、本市も現状施設に防災機能を追加することで市民の命と暮らしを守る可能性が広がる事ができると思います。この度学ばせて頂いた事をもとに様々な提案をさせていただきます。

②業務用消滅型生ごみ処理機他事業内容について<参加者：全員>

《目的》

本市におきましてもごみの減量は様々な施策をもとに市民のご協力もあり先行的に進んでいる事は事実であります。今後、更なる焼却施設の延命施策や、ゼロカーボンなどの環境施策遂行のためには更なるごみの減量を力強く推進することが必要になります。

この度は特に生ごみ減量に焦点を当てる中で、業務用生ごみ処理機導入で実績をあげられている㈱エイ・アイ・シーの製品や仕組み、更には導入実績・効果を学び、本市のごみ行政に寄与できないかなどを学ぶことを目的とします。

《業務用生ごみ処理機「ゴミサー」について》

○持続可能な環境づくりにおきまして、生ごみの処理・再資源化に関する最新技術を駆使された生ごみ分解消滅機「ゴミサー」ですが、「たい肥型」から「消滅型」にシフトされて、環境にやさしく衛生的かつ効率的処理が可能です。

○製品の概要としまして「ゴミサー」は、バクテリアの働きにより生ごみを水と炭酸ガスに完全分解し、残渣が一切出ない「完全消滅型」処理機である。処理された水は下水道や浄化槽へ排水され、液体肥料としても活用可能で、まさに生ごみを「水に変える」という事でした。

○主な特徴と利点としまして以下の通りでした。

・衛生的かつ手間いらず：生ごみの保管が不要で、いつでも投入可能。処理は全自動。

・高い分解性能：生ごみの水分を切らずにそのまま投入でき、従来型処理機より分解速度が速い。

・完全消滅型：処理後に残渣が出ず、後処理や交換作業が不要。

・低ランニングコスト：年数回の菌体コア補充と水道・電気代のみ（例：GH20型で月約5,500円程度）。

・耐久性と安全性：ステンレス製で防錆性に優れ、耐用年数は10年以上。

・SDGs 貢献：食品リサイクル推進・食品ロス削減の実績あり（例：藍野大学のモデル事業）。

	○導入実績としましては、全国で 2,500 台以上が稼働されて、保育園、老人ホーム、社員食堂、大学、病院、ホテル、食品工場、行政施設等、幅広い分野に導入されているとの事でした。この度はその中の病院に案内頂き実機を見学させて頂きました。 ○課題・留意点としましては以下の通りでした。 ・処理できないごみの分別が必要（卵殻・貝殻・ビニール等は不可）。 ・設置には一定のスペースと電源（単相または三相）が必要。 ・導入コストは機種・規模により異なり、初期費用としては一定額の投資が必要。 《所感》 ゴミサーは、環境保全・衛生面・業務効率化において非常に優れた処理機であり、特に保育施設や学校、給食センターなどの大量生ごみ発生施設に適していると感じました。 更にはコストはかかりますが、「ゴミサポーター」という大型処理機も扱っており焼却施設の延命も運搬コストの削減も含め良いと思いました。 SDGs（特に目標 12「つくる責任つかう責任」）の観点からも意義があり、今後の地域導入や補助制度との連携による展開が期待されると思います。		
	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="448 1155 746 1458">資料名（会派保管）</td><td data-bbox="746 1155 1449 1458"> ①大和市 「やまと防災パーク説明資料」 「藤岡市市勢ガイド」 「藤岡市市議会要覧」他 ②㈱エー・アイ・シー 「生ごみ処理機ゴミサーご提案資料」 「ゴミサー＆ゴミサポーターパンフレット」 「会社概要」他 </td></tr> </table>	資料名（会派保管）	①大和市 「やまと防災パーク説明資料」 「藤岡市市勢ガイド」 「藤岡市市議会要覧」他 ②㈱エー・アイ・シー 「生ごみ処理機ゴミサーご提案資料」 「ゴミサー＆ゴミサポーターパンフレット」 「会社概要」他
資料名（会派保管）	①大和市 「やまと防災パーク説明資料」 「藤岡市市勢ガイド」 「藤岡市市議会要覧」他 ②㈱エー・アイ・シー 「生ごみ処理機ゴミサーご提案資料」 「ゴミサー＆ゴミサポーターパンフレット」 「会社概要」他		

会派内回覧								
-------	---	---	---	---	--	--	--	--

(様式 3)

政務活動（参加・**実施**）報告書

令和 7 年 5 月 29 日

会 派 公明党議員団参 加 者 大西 厚子

政務活動先 (目的地)	① エニーシステム(株) 埼玉県川口市西川口 1-26-4 1F ② (株)ZIPCARE 東京千代田区神田佐久間町 4 丁目 16 3F				
開催団体等					
政務活動期間	令和 7 年 5 月 26 日 (月) ~ 28 日 (水)				3 日間
政務活動項目 (名称等)	① パルスハートバンド他介護業務の負担軽減について ② 介護ロボット全般について				
政務活動参加者	大西厚子	藤田広美	大野正和	池田謙次	神山哲太郎
					計 5 名
全体参加者数					
政務活動の目的・結果等の概要・所見	① パルスハートバンド他介護業務の負担軽減について 〈参加者：大西、藤田、大野、神山〉 《目的》 本市におきましても急速に進む高齢化に伴い、介護現場では人手不足や業務負担の増大が深刻な課題となっております。これらの課題に対し、ICT や IoT の導入による業務効率化・負担軽減が期待されている中で、介護見守り機器「パルスハートバンド」等を活用した取り組みを行っているエニーシステム株式会社を訪問し、その実態や効果、導入上の課題等を把握することを目的とします。 《パルスハートバンドと介護業務の負担軽減について》 ○会社概要 エニーシステム株式会社は 2014 年設立。少数精鋭の IT 企業でありながら、医療・介護分野に特化したシステムや IoT 機器を開発。特許取得の技術も複数保持しております。 ○パルスハートバンドの製品概要 ・腕に装着するウェアラブル型見守りセンサーです。 ・心拍、体動、転倒、離床などをリアルタイムで検知し、スマホやタブレットに通知されます。 ・通信は BLE (Bluetooth Low Energy) に対応されて、施設内ネットワークとも連携が可能になります。 ・利用者のプライバシーは侵害されず、夜間の見回り頻度が低減されます。				

○効果と現場の声

- ・巡視業務や記録作業の省力化に寄与され業務負担軽減になります。
- ・転倒や徘徊の早期発見で重大事故を回避し事故防止につながります。
- ・24 時間見守りの安心感が、夜勤職員のストレス軽減につながり職員の心理的負担の軽減にもなります。
- ・定型業務を ICT が担うことで、介護職員が本来の「人と向き合う時間」を確保できるようになり、利用者とのコミュニケーション重視の観点が実現されます。

○導入に向けての課題と今後の展望

- ・初期導入には一定のコストが必要になってきます。行政の補助制度との連携が重要になるのではないかと思います。
- ・インターネット環境の整備のコストも新規になるので、施設によっては通信環境の構築が一番の前提となります。
- ・現場職員の IT スキル向上も必要で、操作性やサポート体制の整備が不可欠になります。

○今後は、地域包括ケアや在宅介護における展開も見据え、より柔軟で拡張性の高いシステムが求められるのは時代の流れで必須になると思いました。

《所感》

今回の視察を通じて、ICT を活用した見守り機器が介護現場の大きな支援となりうることを更に実感しました。単なる省力化にとどまらず、「利用者の安全」と「職員の働きやすさ」の両立に資する取組として、他地域でも広く参考にできると考えられます。今後は、市としてもこうした技術導入を支援する施策・補助制度の整備が求められると心から思いました。

② 介護ロボット全般について〈参加者：全員〉

《目的》

高齢化の進展と介護人材不足が深刻化する中、介護現場におけるロボット技術の導入は、介護の質の向上と職員の負担軽減の両面において期待されております。本視察では、介護ロボットの開発・提供を行う株式会社 ZIPCARE の取り組みを通じて、現場ニーズに即した介護ロボットの機能・効果・導入の実際を学ぶことを目的としました。

《介護ロボット全般「まもる～の」について》

○会社概要

株式会社 ZIPCARE は、介護現場に特化したロボット技術および ICT 機器の開発・販売を行う企業であり、「現場に寄り添うテクノロジー」を理念に掲げ、全国の介護施設や自治体に向けて製品提供を行っている企業です。

○製品概要 見守り介護ロボット『まもる～の』

「まもる～の」は、介護施設や在宅環境における高齢者の状態変化（起き上がり・離床・心拍・呼吸など）を常時モニタリングする見守り介護ロボットです。専用のセンサーと AI 解析機能により、転倒リスクや異常状態を即時検知・通知し、事故の予防と業務負担の軽減に大きく

寄与します。

○見守りセンサーの AI 検知によるアラート通知のデモを本体を見ながらご説明をいただきました。

○現場視点に立った設計がされており、導入のハードルが比較的低い印象を受けました。特に「エアバックセンサー」は呼吸・脈拍・体動・離床・在床・睡眠レベルが測定可能で、まもる～のセンサー本体はその場の温度・湿度・照度・気圧の測定がされて、軽量かつ着脱も容易で、利用者・職員双方に負担が少ない製品です。

○エアバックセンサーは非接触型で、ベッド下に設置するため利用者の負担はひとつもありません。

○センサーで読まれた呼吸・心拍・体動の変化を AI が学習・解析して、個別の行動パターンに応じたアラートを自動調整され、異常検知時はスマートフォンやタブレットへ即時通知されます。無駄な駆けつけ（現場ではこれがかなりの回数あると聞きます）の削減に大きな効果があります。

○介護記録ソフトとも連携可能で、見守り→記録の自動化が可能になります。

○これらにより見守りの質が向上する一方、不要な駆けつけの削減につながるなど、省人化と安全確保を両立する仕組みが確認できました。

○介護ロボットの導入には、現場職員の理解とトレーニングの確保が不可欠であり、ZIPCARE 社ではその支援体制も整備している点が好印象でありました。

《所感》

『まもる～の』は、従来の見守りセンサーに比べ、AI による学習機能が加わっている点が革新的であり、単なる“通知機能”にとどまらず、“予測型のケア支援”に移行していると感じました。特に、夜間の少人数体制において「まもる～の」が果たす役割は非常に大きく、巡回回数を減らすことができる点は、介護職員の負担軽減に大きくつながると考えられます。利用者に直接触れることなく見守れることから、プライバシー保護の観点でも優れていると感じました。

今後は、市としてもこうした技術導入を支援する施策・補助制度の整備が求められると心から思いました。

資料名（会派保管）

① エニーシステム（株）
「会社案内」
「パルスハートバンドカタログ」
「国の動向など学習用資料」他

② ㈱ZIPCARE
「製品ご説明書」
「厚生労働省介護報酬改訂資料（学習用）」
「まもる～のパンフレット」他

会派内回覧

